

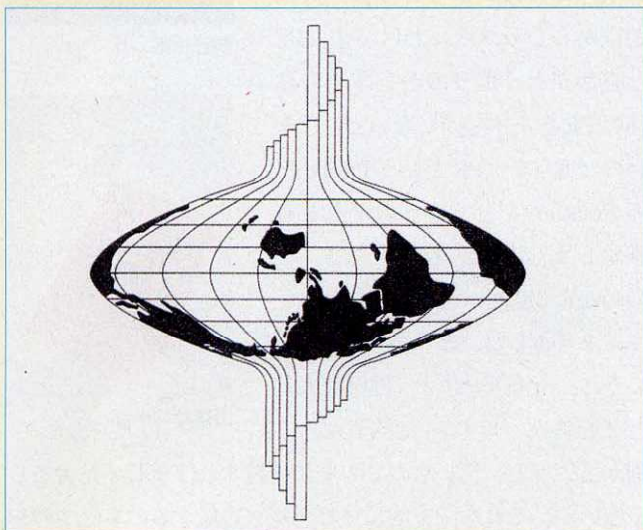
[特集]

FCCが行く 関西からの情報発信

●編集担当：機動編集B班（50音順）

安藤陽一・河野達仁・奈良欣憲・堀口 敬・
三浦哲也・横野勇人*

[*3月号特集主査]



◆企画趣旨◆

FCCとはフォーラム・シビル・コスモス（土木学）の略称であり、土木工学の枠組みに留まらない「土木の理念」とその「あるべき姿」を模索するため、1990年に土木学会関西支部に設立された集団である。「内なる啓蒙」と「外への発信」を基本哲学とし、土木界のみならず、広く他の産業界、マスコミ、教育界などの分野からも自由に参画者を募ることによって、官制の強い土木の抱える問題を俎上に乗せ、客観的な批判と将来あるべき姿へ改革するための前向きな議論を続けてきた。

本特集は、関西支部にあって、土木界と外界との堀の上を歩いているようなFCCの活動を紹介するとともに、閉塞感に苛まれている土木界の現状をいかにしてプラスに転じていくかについてFCCの考えを披瀝するものである。

第1章では、FCC草創期から関わったメンバーによる座談会により、その理念や活動の歴史など、FCCのありのままの姿を紹介する。

第2章では、「内なる啓蒙」を一つの活動指針として掲げ、幅広い年代間での議論を通じて、FCCが積み重ねてきたFCC活動の成果の一部を報告する。また、外界からの視点の代表としてメディアからの辛口批評を紹介する。

第3章では、「外への発信」という観点から、昨年の「FCCサロン」における議論を紹介するとともに、義務教育の中の土木および教育現場と土木が抱える共通課題について論じる。

第4章では、これまでFCC活動に密接に関係のあった、都市再生における市民参加・合意形成、NPOと土木、シルバー世代の活躍といった事例・話題を未来のプロジェクトXとして紹介する。

第5章では、FCCの将来展望について述べる。

また、コラムではFCCメンバーから、土木への想いや理念・哲学を語ってもらった。